

令和8年度



# ゆうゆう学級開講式

令和8年5月18日（月）、屋代公民館講堂にて「ゆうゆう学級開講式」を行いました。  
今年度は手話講座、歴史文化講座の2本立て！

手話講座は千曲市が「手話言語条例」を制定したことを受け、主語言語の理解、普及のために、そして歴史文化講座は屋代がむかし海の底だった頃から古墳ができるまでの地域の歴史を通じて、地元に興味を持ってもらおうと開催しました。

## ① 手話講座

講師：千曲市聴覚障害者協会 井出 久美子 様  
通訳者 岩崎 礼子 様

・手話を感じる ・口型をはっきり開ける ・顔も手話の文法のひとつ  
というお話を聞きながら、おふたりの軽妙なやり取りで日常で使うあいさつやお礼を  
教えていただきました。普段のジェスチャーが手話に通じているというのはなるほどでした。  
短い時間でしたが、皆さんどんどん覚えていきました。  
井出さん、岩崎さん、ありがとうございました。



みなさんで練習中



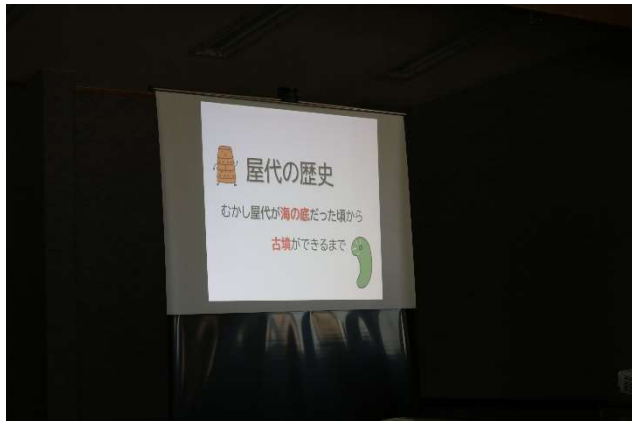
向かい合ってやってみましょう



## ② 歴史文化講座

講師：森將軍塚古墳館 館長 酒井 賢一 先生

「屋代の歴史～むかし屋代が海の底だった頃から古墳ができるまで～」



みずらかチューシャの酒井館長です

酒井館長は森のご出身であり、専門は理科という事もあり、地層の話も織り交ぜて説明していただきました。屋代は昔海の底でした。千曲川とともに歩んできた屋代。犀川のほうがパワーがあるそうで、扇状地に押されて蛇行するのが千曲川だそうです。そして縄文時代から自然堤防の上に住宅が建っているそうです。屋代は遺跡もたくさんあります。

そこからの森將軍塚古墳ができるまでのお話と、養蚕についてのお話をお聞きしました。森將軍塚古墳、森將軍塚古墳館ができるまでの苦勞と歴史、石室について、倉科の石英閃緑岩を使用している事などなど本当に盛りだくさんでした。

そして養蚕の話です。昭和初期の森將軍塚は桑畑でした。千曲市は水と土地が養蚕に適しており、桑木が育ち、気候が蚕にぴったりであり、病気になりにくいとのことでした。

そして、交通の発達により、風穴が使えたのも大きかったとの事です。

そんなつながりから秋には市外研修で富岡製糸場を見学に行きます。

世界遺産、国宝である富岡製糸場。前回の市外研修から時間が経っていますので改めて見学してみたいかがでしょうか？



わかりやすい酒井館長の説明

